

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅳ	通年	火 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲村 小夜子	3年	授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域社会資源の開発および地域ネットワーク、コーディネーションについて専門知識や技術を身につける。また、相談援助実習で学んだことをジェネラリストソーシャルワークの視点から振り返りつつ、相談援助演習のまとめを行う。	相談援助演習はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを通して将来の社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを目標にしています。特に、本科目はその集大成的な内容になっています。講義科目で学んだ理論と相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが連続していることを意識しつつ講義に参加してください。
到達目標	相談援助に必要な実践力や考察力を習得することができる。 ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチが理解できる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：ゼミの概要説明。地域資源	配布資料を読み込む
	2	アセスメント①：地域住民に対するアウトリーチと地域ニーズの把握	グループ発表の準備をする
	3	アセスメント②：地域アセスメントの方法	グループ発表の準備をする
	4	アセスメント③：地域アセスメントのプロセス	グループ発表の準備をする
	5	プランニング①：エンパワメント志向のプランニング～地域住民や当事者のストレングス	グループ発表の準備をする
	6	プランニング②：地域福祉計画の策定	グループ発表の準備をする
	7	活動・プログラムの実施①事例検討	課題（事例検討）に取り組む
	8	活動・プログラムの実施②事例検討	課題（事例検討）に取り組む
	9	評価：活動の評価をする上で地域住民および専門職の役割	課題（事例検討）に取り組む
	10	ネットワーク：事例を通して地域の社会資源のネットワークの手法を理解する	グループ発表の準備をする
	11	社会資源の活用・調整：事例を通して社会資源の活用・調整に関する手法を理解する	グループ発表の準備をする
	12	社会資源の開発：新たに社会資源を開発する方法について理解する	グループ発表の準備をする
	13	ソーシャルアクション：事例を通してソーシャルアクションの意義や手法を理解する	グループ発表の準備をする
	14	ミクロ・メゾ・マクロの視点：相談援助実習時の課題について理解する	レポート課題に取り組む
	15	前期まとめ	前期のまとめを行う
	16	後期オリエンテーション：演習の概要説明。実習のふりかえり	実習時の課題を振り返る
	17	実習での学びをふりかえる①課題整理	ディスカッションをまとめる
	18	実習での学びをふりかえる②課題整理	ディスカッションをまとめる
	19	実習での学びをふりかえる③個別発表(1)	分野別発表の準備をする
	20	実習での学びをふりかえる③個別発表(2)	分野別発表の準備をする
	21	実習での学びをふりかえる③個別発表(3)	ディスカッションをまとめる
	22	実習での学びをふりかえる③個別発表(4)	ディスカッションをまとめる
	23	実習での学びをふりかえる③個別発表(5)	個別発表の準備をする
	24	実習での学びをふりかえる③個別発表(6)	個別発表の準備をする
	25	実習での学びをふりかえる③個別発表(7)	個別発表の準備をする
	26	ジェネラリストソーシャルワークの効果と課題	配布資料を要約する
	27	ソーシャルワーカーの価値・倫理①	配布資料を読み込む
	28	ソーシャルワーカーの価値・倫理②	配布資料を読み込む
29	他の職種との連携・協働の意義	課題に取り組む	
30	スーパービジョンの意義、方法	課題に取り組む	
31	まとめ	相談援助演習の総まとめを行う	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定しているテキストはない。 参考文献は随時教員が資料を印刷し、配付する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 地域の社会資源を発掘、発展する技術について理解を深めましょう。相談援助実習で学んだことを分析する力を身につけましょう。積極的にボランティアをして視野を広げましょう。</p>
	<p>評価 講義への参加度 20% 予習を兼ねた宿題の提出状況 25% グループ研究発表会の準備および内容 25% 個別発表会の準備および内容 30%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 相談援助演習の集大成をしっかり行い、社会福祉学研究および卒業後のキャリアにつなげられるようにする。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅳ	通年	火 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	3年	授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域社会資源の開発および地域ネットワーキング、コーディネーションについて専門知識や技術を身につける。また、相談援助実習で学んだことをジェネラリストソーシャルワークの視点から振り返りつつ、相談援助演習のまとめを行う。	相談援助演習はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを通して将来の社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを目標にしています。特に、本科目はその集大成的な内容になっています。講義科目で学んだ理論と相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが連続していることを意識しつつ講義に参加してください。
到達目標	相談援助に必要な実践力や考察力を習得することができる。 ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチが理解できる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：ゼミの概要説明。地域資源	配布資料を読み込む
	2	アセスメント①：地域住民に対するアウトリーチと地域ニーズの把握	グループ発表の準備をする
	3	アセスメント②：地域アセスメントの方法	グループ発表の準備をする
	4	アセスメント③：地域アセスメントのプロセス	グループ発表の準備をする
	5	プランニング①：エンパワメント志向のプランニング～地域住民や当事者のストレングス	グループ発表の準備をする
	6	プランニング②：地域福祉計画の策定	グループ発表の準備をする
	7	活動・プログラムの実施①事例検討	課題（事例検討）に取り組む
	8	活動・プログラムの実施②事例検討	課題（事例検討）に取り組む
	9	評価：活動の評価をする上で地域住民および専門職の役割	課題（事例検討）に取り組む
	10	ネットワーキング：事例を通して地域の社会資源のネットワーキングの手法を理解する	グループ発表の準備をする
	11	社会資源の活用・調整：事例を通して社会資源の活用・調整に関する手法を理解する	グループ発表の準備をする
	12	社会資源の開発：新たに社会資源を開発する方法について理解する	グループ発表の準備をする
	13	ソーシャルアクション：事例を通してソーシャルアクションの意義や手法を理解する	グループ発表の準備をする
	14	ミクロ・メゾ・マクロの視点：相談援助実習時の課題について理解する	レポート課題に取り組む
	15	前期まとめ	前期のまとめを行う
	16	後期オリエンテーション：演習の概要説明。実習のふりかえり	実習時の課題を振り返る
	17	実習での学びをふりかえる①課題整理	ディスカッションをまとめる
	18	実習での学びをふりかえる②課題整理	ディスカッションをまとめる
	19	実習での学びをふりかえる③個別発表(1)	分野別発表の準備をする
	20	実習での学びをふりかえる③個別発表(2)	分野別発表の準備をする
	21	実習での学びをふりかえる③個別発表(3)	ディスカッションをまとめる
	22	実習での学びをふりかえる③個別発表(4)	ディスカッションをまとめる
	23	実習での学びをふりかえる③個別発表(5)	個別発表の準備をする
	24	実習での学びをふりかえる③個別発表(6)	個別発表の準備をする
	25	実習での学びをふりかえる③個別発表(7)	個別発表の準備をする
	26	ジェネラリストソーシャルワークの効果と課題	配布資料を要約する
	27	ソーシャルワーカーの価値・倫理①	配布資料を読み込む
	28	ソーシャルワーカーの価値・倫理②	配布資料を読み込む
29	他の職種との連携・協働の意義	課題に取り組む	
30	スーパービジョンの意義、方法	課題に取り組む	
31	まとめ	相談援助演習の総まとめを行う	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定しているテキストはない。 参考文献は随時教員が資料を印刷し、配付する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 地域の社会資源を発掘、発展する技術について理解を深めましょう。相談援助実習で学んだことを分析する力を身につけましょう。積極的にボランティアをして視野を広げましょう。</p>
	<p>評価 講義への参加度 20% 予習を兼ねた宿題の提出状況 25% グループ研究発表会の準備および内容 25% 個別発表会の準備および内容 30%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 相談援助演習の集大成をしっかり行い、社会福祉学研究および卒業後のキャリアにつなげられるようにする。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅳ	通年	火 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	荻野 太司	3年	授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域社会資源の開発および地域ネットワーキング、コーディネーションについて専門知識や技術を身につける。また、相談援助実習で学んだことをジェネラリストソーシャルワークの視点から振り返りつつ、相談援助演習のまとめを行う。	相談援助演習はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを通して将来の社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを目標にしています。特に、本科目はその集大成的な内容になっています。講義科目で学んだ理論と相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが連続していることを意識しつつ講義に参加してください。
到達目標	相談援助に必要な実践力や考察力を習得することができる。 ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチが理解できる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：ゼミの概要説明。地域資源	配布資料を読み込む
	2	アセスメント①：地域住民に対するアウトリーチと地域ニーズの把握	グループ発表の準備をする
	3	アセスメント②：地域アセスメントの方法	グループ発表の準備をする
	4	アセスメント③：地域アセスメントのプロセス	グループ発表の準備をする
	5	プランニング①：エンパワメント志向のプランニング～地域住民や当事者のストレングス	グループ発表の準備をする
	6	プランニング②：地域福祉計画の策定	グループ発表の準備をする
	7	活動・プログラムの実施①事例検討	課題（事例検討）に取り組む
	8	活動・プログラムの実施②事例検討	課題（事例検討）に取り組む
	9	評価：活動の評価をする上で地域住民および専門職の役割	課題（事例検討）に取り組む
	10	ネットワーキング：事例を通して地域の社会資源のネットワーキングの手法を理解する	グループ発表の準備をする
	11	社会資源の活用・調整：事例を通して社会資源の活用・調整に関する手法を理解する	グループ発表の準備をする
	12	社会資源の開発：新たに社会資源を開発する方法について理解する	グループ発表の準備をする
	13	ソーシャルアクション：事例を通してソーシャルアクションの意義や手法を理解する	グループ発表の準備をする
	14	ミクロ・メゾ・マクロの視点：相談援助実習時の課題について理解する	レポート課題に取り組む
	15	前期まとめ	前期のまとめを行う
	16	後期オリエンテーション：演習の概要説明。実習のふりかえり	実習時の課題を振り返る
	17	実習での学びをふりかえる①課題整理	ディスカッションをまとめる
	18	実習での学びをふりかえる②課題整理	ディスカッションをまとめる
	19	実習での学びをふりかえる③個別発表(1)	分野別発表の準備をする
	20	実習での学びをふりかえる③個別発表(2)	分野別発表の準備をする
	21	実習での学びをふりかえる③個別発表(3)	ディスカッションをまとめる
	22	実習での学びをふりかえる③個別発表(4)	ディスカッションをまとめる
	23	実習での学びをふりかえる③個別発表(5)	個別発表の準備をする
	24	実習での学びをふりかえる③個別発表(6)	個別発表の準備をする
	25	実習での学びをふりかえる③個別発表(7)	個別発表の準備をする
	26	ジェネラリストソーシャルワークの効果と課題	配布資料を要約する
	27	ソーシャルワーカーの価値・倫理①	配布資料を読み込む
	28	ソーシャルワーカーの価値・倫理②	配布資料を読み込む
29	他の職種との連携・協働の意義	課題に取り組む	
30	スーパービジョンの意義、方法	課題に取り組む	
31	まとめ	相談援助演習の総まとめを行う	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定しているテキストはない。 参考文献は随時教員が資料を印刷し、配付する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 地域の社会資源を発掘、発展する技術について理解を深めましょう。相談援助実習で学んだことを分析する力を身につけましょう。積極的にボランティアをして視野を広げましょう。</p>
	<p>評価 講義への参加度 20% 予習を兼ねた宿題の提出状況 25% グループ研究発表会の準備および内容 25% 個別発表会の準備および内容 30%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 相談援助演習の集大成をしっかり行い、社会福祉学研究および卒業後のキャリアにつなげられるようにする。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅳ	通年	火 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	3年	授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域社会資源の開発および地域ネットワーキング、コーディネーションについて専門知識や技術を身につける。また、相談援助実習で学んだことをジェネラリストソーシャルワークの視点から振り返りつつ、相談援助演習のまとめを行う。	相談援助演習はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを通して将来の社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを目標にしています。特に、本科目はその集大成的な内容になっています。講義科目で学んだ理論と相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが連続していることを意識しつつ講義に参加してください。
到達目標	相談援助に必要な実践力や考察力を習得することができる。 ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチが理解できる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：ゼミの概要説明。地域資源	配布資料を読み込む
	2	アセスメント①：地域住民に対するアウトリーチと地域ニーズの把握	グループ発表の準備をする
	3	アセスメント②：地域アセスメントの方法	グループ発表の準備をする
	4	アセスメント③：地域アセスメントのプロセス	グループ発表の準備をする
	5	プランニング①：エンパワメント志向のプランニング～地域住民や当事者のストレングス	グループ発表の準備をする
	6	プランニング②：地域福祉計画の策定	グループ発表の準備をする
	7	活動・プログラムの実施①事例検討	課題（事例検討）に取り組む
	8	活動・プログラムの実施②事例検討	課題（事例検討）に取り組む
	9	評価：活動の評価をする上で地域住民および専門職の役割	課題（事例検討）に取り組む
	10	ネットワーキング：事例を通して地域の社会資源のネットワーキングの手法を理解する	グループ発表の準備をする
	11	社会資源の活用・調整：事例を通して社会資源の活用・調整に関する手法を理解する	グループ発表の準備をする
	12	社会資源の開発：新たに社会資源を開発する方法について理解する	グループ発表の準備をする
	13	ソーシャルアクション：事例を通してソーシャルアクションの意義や手法を理解する	グループ発表の準備をする
	14	ミクロ・メゾ・マクロの視点：相談援助実習時の課題について理解する	レポート課題に取り組む
	15	前期まとめ	前期のまとめを行う
	16	後期オリエンテーション：演習の概要説明。実習のふりかえり	実習時の課題を振り返る
	17	実習での学びをふりかえる①課題整理	ディスカッションをまとめる
	18	実習での学びをふりかえる②課題整理	ディスカッションをまとめる
	19	実習での学びをふりかえる③個別発表(1)	分野別発表の準備をする
	20	実習での学びをふりかえる③個別発表(2)	分野別発表の準備をする
	21	実習での学びをふりかえる③個別発表(3)	ディスカッションをまとめる
	22	実習での学びをふりかえる③個別発表(4)	ディスカッションをまとめる
	23	実習での学びをふりかえる③個別発表(5)	個別発表の準備をする
	24	実習での学びをふりかえる③個別発表(6)	個別発表の準備をする
	25	実習での学びをふりかえる③個別発表(7)	個別発表の準備をする
	26	ジェネラリストソーシャルワークの効果と課題	配布資料を要約する
	27	ソーシャルワーカーの価値・倫理①	配布資料を読み込む
	28	ソーシャルワーカーの価値・倫理②	配布資料を読み込む
29	他の職種との連携・協働の意義	課題に取り組む	
30	スーパービジョンの意義、方法	課題に取り組む	
31	まとめ	相談援助演習の総まとめを行う	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定しているテキストはない。 参考文献は随時教員が資料を印刷し、配付する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 地域の社会資源を発掘、発展する技術について理解を深めましょう。相談援助実習で学んだことを分析する力を身につけましょう。積極的にボランティアをして視野を広げましょう。</p>
	<p>評価 講義への参加度 20% 予習を兼ねた宿題の提出状況 25% グループ研究発表会の準備および内容 25% 個別発表会の準備および内容 30%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 相談援助演習の集大成をしっかり行い、社会福祉学研究および卒業後のキャリアにつなげられるようにする。</p>

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名 相談援助実習指導Ⅱ	期別	曜日・時限	単位
	担当者 荻野 太司	前期	火 3	2
		対象年次 3年	授業に関する問い合わせ 授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい 本科目は、相談援助実習の事前学習を行うことが主たる目的である。実習配属先の理念、方針、法的根拠、利用者および家族の理解、施設（機関）、職員、地域を学習する。また、実習計画書を作成する。ソーシャルワーカーの倫理綱領についても再確認する。	メッセージ ソーシャルワークの価値、倫理、態度、知識、技術を復習すると共に、相談援助実習に向けて様々な準備をします。自らの実習テーマや達成目標に向かって意識を高く持って臨みましょう。
	到達目標 相談援助実習に向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。 実習機関／施設の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。 実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。 個別支援計画の作成方法等について理解を深めることができる。 質の高い実習日誌を書くことができるようになる。 実習機関／施設が地域社会の中の機関／施設であることを理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション①：相談援助実習・実習指導における学習方法や学習形態、学習内容について	ミニレポートの作成
	2	オリエンテーション②：相談援助実習の意義、評価の内容と仕組みについて	「前年度の実習報告書」を読む
	3	オリエンテーション③：スーパービジョンの意義及び構造について	「個人調書」を作成する
	4	実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解	担当テーマについてグループ学習
	5	実習機関・施設における関連業務（介護等）の基本的理解、関連職種の配置や業務について	担当テーマについてグループ学習
	6	実習機関・施設の利用者及び家族の理解	担当テーマについてグループ学習
	7	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
	8	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
	9	「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解①	現場体験学習の日誌を振り返る
	10	「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解②	行事等参加後の日誌を書いてみる
	11	「実習計画」の作成方法について①	実習テーマを考える
	12	「実習計画」の作成方法について②	達成目標を考える
	13	「個別支援計画」について①	「相談援助演習Ⅲ」の復習
	14	「個別支援計画」について②	「個別支援計画」の事例を調べる
	15	事前訪問の準備	「実習計画書」を修正する
	16	まとめ：実習前最終確認	実習の最終確認を行う
	テキスト・参考文献・資料など 指定のテキストはありません。随時資料を配布します。		
	学びの手立て 履修の心構え：相談援助実習に向けた準備をひとつひとつ丁寧に行いましょう。欠席をすると準備に支障が出てくるので欠席しないようにしましょう。 学びを深めるために：積極的にボランティアを行い視野を広げましょう。関連文献を読みましょう。		
	評価 グループ発表20%、個別発表20%、レポート作成25%、実習計画作成10%、ゼミへの主体的参加25%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助実習、相談援助実習指導Ⅲ、相談援助演習Ⅳにつなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	3年	授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、相談援助実習の事前学習を行うことが主たる目的である。実習配属先の理念、方針、法的根拠、利用者および家族の理解、施設（機関）、職員、地域を学習する。また、実習計画書を作成する。ソーシャルワーカーの倫理綱領についても再確認する。</p>	<p>ソーシャルワークの価値、倫理、態度、知識、技術を復習すると共に、相談援助実習に向けて様々な準備をします。自らの実習テーマや達成目標に向かって意識を高く持って臨みましょう。</p>
到達目標	<p>相談援助実習に向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。 実習機関／施設の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。 実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。 個別支援計画の作成方法等について理解を深めることができる。 質の高い実習日誌を書くことができるようになる。 実習機関／施設が地域社会の中の機関／施設であることを理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション①：相談援助実習・実習指導における学習方法や学習形態、学習内容について	ミニレポートの作成
	2	オリエンテーション②：相談援助実習の意義、評価の内容と仕組みについて	「前年度の実習報告書」を読む
	3	オリエンテーション③：スーパービジョンの意義及び構造について	「個人調書」を作成する
	4	実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解	担当テーマについてグループ学習
	5	実習機関・施設における関連業務（介護等）の基本的理解、関連職種の配置や業務について	担当テーマについてグループ学習
	6	実習機関・施設の利用者及び家族の理解	担当テーマについてグループ学習
	7	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
	8	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
	9	「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解①	現場体験学習の日誌を振り返る
	10	「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解②	行事等参加後の日誌を書いてみる
	11	「実習計画」の作成方法について①	実習テーマを考える
	12	「実習計画」の作成方法について②	達成目標を考える
	13	「個別支援計画」について①	「相談援助演習Ⅲ」の復習
14	「個別支援計画」について②	「個別支援計画」の事例を調べる	
15	事前訪問の準備	「実習計画書」を修正する	
16	まとめ：実習前最終確認	実習の最終確認を行う	
テキスト・参考文献・資料など	指定のテキストはありません。随時資料を配布します。		
学びの手立て	<p>履修の心構え：相談援助実習に向けた準備をひとつひとつ丁寧に行いましょう。欠席をすると準備に支障が出てくるので欠席しないようにしましょう。 学びを深めるために：積極的にボランティアを行い視野を広げましょう。関連文献を読みましょう。</p>		
評価	グループ発表20%、個別発表20%、レポート作成25%、実習計画作成10%、ゼミへの主体的参加25%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助実習、相談援助実習指導Ⅲ、相談援助演習Ⅳにつなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	3年	授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、相談援助実習の事前学習を行うことが主たる目的である。実習配属先の理念、方針、法的根拠、利用者および家族の理解、施設（機関）、職員、地域を学習する。また、実習計画書を作成する。ソーシャルワーカーの倫理綱領についても再確認する。</p>	<p>ソーシャルワークの価値、倫理、態度、知識、技術を復習すると共に、相談援助実習に向けて様々な準備をします。自らの実習テーマや達成目標に向かって意識を高く持って臨みましょう。</p>
到達目標	<p>相談援助実習に向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。 実習機関／施設の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。 実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。 個別支援計画の作成方法等について理解を深めることができる。 質の高い実習日誌を書くことができるようになる。 実習機関／施設が地域社会の中の機関／施設であることを理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（相談援助実習における学習方法や学習形態、学習内容について）	ミニレポートの作成
	2	相談援助実習の意義、評価の内容と仕組みについて	「前年度の実習報告書」を読む
	3	スーパービジョンの意義及び構造について	「個人調書」を作成する
	4	実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解	担当テーマについてグループ学習
	5	実習機関・施設における関連業務（介護等）の基本的理解、関連職種の配置や業務について	担当テーマについてグループ学習
	6	実習機関・施設の利用者及び家族の理解	担当テーマについてグループ学習
	7	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
	8	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
	9	実習日誌への記録内容及び記録方法に関する理解①	現場体験学習の日誌を振り返る
	10	実習日誌への記録内容及び記録方法に関する理解②	行事等参加後の日誌を書いてみる
	11	実習計画の作成方法について①	実習テーマを考える
	12	実習計画の作成方法について②	達成目標を考える
	13	個別支援計画について	「相談援助演習Ⅲ」の復習
14	サービス等利用計画について	「個別支援計画」の事例を調べる	
15	事前訪問の準備	「実習計画書」を修正する	
16	まとめ：実習前最終確認	実習の最終確認を行う	
テキスト・参考文献・資料など	指定のテキストはありません。随時資料を配布します。		
学びの手立て	履修の心構え：相談援助実習に向けた準備をひとつひとつ丁寧に行いましょう。欠席をすると準備に支障が出てくるので欠席しないようにしましょう。 学びを深めるために：積極的にボランティアを行い視野を広げましょう。関連文献を読みましょう。		
評価	グループ発表20%、個別発表20%、レポート作成25%、実習計画作成10%、ゼミへの主体的参加25%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助実習、相談援助実習指導Ⅲ、相談援助演習Ⅳにつなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	3年	授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい 本科目は、相談援助実習の事前学習を行うことが主たる目的である。実習配属先の理念、方針、法的根拠、利用者および家族の理解、施設（機関）、職員、地域を学習する。また、実習計画書を作成する。ソーシャルワーカーの倫理綱領についても再確認する。	メッセージ ソーシャルワークの価値、倫理、態度、知識、技術を復習すると共に、相談援助実習に向けて様々な準備をします。自らの実習テーマや達成目標に向かって意識を高く持って臨みましょう。
	到達目標 相談援助実習に向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。 実習機関／施設の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。 実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。 個別支援計画の作成方法等について理解を深めることができる。 質の高い実習日誌を書くことができるようになる。 実習機関／施設が地域社会の中の機関／施設であることを理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション①：相談援助実習・実習指導における学習方法や学習形態、学習内容について	ミニレポートの作成
	2	オリエンテーション②：相談援助実習の意義、評価の内容と仕組みについて	「前年度の実習報告書」を読む
	3	オリエンテーション③：スーパービジョンの意義及び構造について	「個人調書」を作成する
	4	実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解	担当テーマについてグループ学習
	5	実習機関・施設における関連業務（介護等）の基本的理解、関連職種の配置や業務について	担当テーマについてグループ学習
	6	実習機関・施設の利用者及び家族の理解	担当テーマについてグループ学習
	7	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
	8	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
	9	「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解①	現場体験学習の日誌を振り返る
	10	「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解②	行事等参加後の日誌を書いてみる
	11	「実習計画」の作成方法について①	実習テーマを考える
	12	「実習計画」の作成方法について②	達成目標を考える
	13	「個別支援計画」について①	「相談援助演習Ⅲ」の復習
14	「個別支援計画」について②	「個別支援計画」の事例を調べる	
15	事前訪問の準備	「実習計画書」を修正する	
16	まとめ：実習前最終確認	実習の最終確認を行う	
	テキスト・参考文献・資料など 指定のテキストはありません。随時資料を配布します。		
	学びの手立て 履修の心構え：相談援助実習に向けた準備をひとつひとつ丁寧に行いましょう。欠席をすると準備に支障が出てくるので欠席しないようにしましょう。 学びを深めるために：積極的にボランティアを行い視野を広げましょう。関連文献を読みましょう。		
	評価 グループ発表20%、個別発表20%、レポート作成25%、実習計画作成10%、ゼミへの主体的参加25%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助実習、相談援助実習指導Ⅲ、相談援助演習Ⅳにつなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

医療・保健・福祉の連携や、多職種と協働できる社会福祉専門職のあり方について、具体的かつ実際に理解することができる。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	3年	授業の最後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。	

学びの準備	ねらい ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題等について理解する。	メッセージ ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。
	到達目標 実習を通しての自らの成長と今後の学習課題を確認できる。 実習総括レポートの作成、報告ができる。 実習生同士でのディスカッションを重ね、ソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	ミニレポートを作成する
	2	実習成果の確認及び整理（グループ）①：「最も印象に残っている日誌の記録」について	ディスカッションを分析する
	3	実習成果の確認及び整理（グループ）②：「担当（陪席）した面接の記録」について	ディスカッションを分析する
	4	実習成果の確認及び整理（グループ）③：「個別支援計画（事例のまとめ）」について	ディスカッションを分析する
	5	実習成果の確認及び整理（個別）①：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	6	実習成果の確認及び整理（個別）②：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	7	実習成果の確認及び整理（個別）③：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	8	相談援助実習ゼミ報告会①：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	9	相談援助実習ゼミ報告会②：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	10	相談援助実習ゼミ報告会③：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	11	合同実習報告会：実習の評価全体総括	ディスカッションを分析する
	12	実習総括レポート（報告書）作成の意義と作成方法について	報告書を作成する
	13	報告書作成①	報告書を作成する
	14	報告書作成②	報告書を作成する
15	報告書作成③	報告書を作成する	
16	まとめ・実習指導者との交流会	今後の学習課題や進路を考える	
テキスト・参考文献・資料など テキスト：『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。			
学びの手立て 本科目は相談援助実習の事後学習として位置付けることができます。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができるよう、文献学習を行うとともに、学外での研修会や講演会にも積極的に参加しましょう。			
評価 実習報告内容① 25%、実習報告内容② 25%、レポート30%、ゼミへの主体的参加20%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助演習Ⅳ、その他関連科目の理解につなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

福祉・医療・保健の連携や、多職種と協働できる社会福祉専門職のあり方について、具体的かつ実際に理解することができる。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	3年	授業の最後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。	

学びの準備	ねらい ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題等について理解する。	メッセージ 実習で得た知識や経験を通して、ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。
	到達目標 実習を通しての自らの成長と今後の学習課題を確認できる。 実習総括レポートの作成、報告ができる。 実習生同士でのディスカッションを重ね、ソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	ミニレポートを作成する
	2	実習成果の確認及び整理（グループ）①：「最も印象に残っている日誌の記録」について	ディスカッションを分析する
	3	実習成果の確認及び整理（グループ）②：「担当（陪席）した面接の記録」について	ディスカッションを分析する
	4	実習成果の確認及び整理（グループ）③：「個別支援計画（事例のまとめ）」について	ディスカッションを分析する
	5	実習成果の確認及び整理（個別）①：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	6	実習成果の確認及び整理（個別）②：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	7	実習成果の確認及び整理（個別）③：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	8	相談援助実習ゼミ報告会①：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	9	相談援助実習ゼミ報告会②：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	10	相談援助実習ゼミ報告会③：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	11	合同実習報告会：実習の評価全体総括	ディスカッションを分析する
	12	実習総括レポート（報告書）作成の意義と作成方法について	報告書を作成する
	13	報告書作成①	報告書を作成する
	14	報告書作成②	報告書を作成する
15	報告書作成③	報告書を作成する	
16	まとめ・実習指導者との交流会	今後の学習課題や進路を考える	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。		
	学びの手立て 本科目は相談援助実習の事後学習として位置付けることができます。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができるよう、文献学習を行うとともに、学外での研修会や講演会にも積極的に参加しましょう。		
	評価 実習報告内容① 25%、実習報告内容② 25%、レポート30%、ゼミへの主体的参加20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助演習Ⅳ、その他関連科目の理解につなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

医療・保健・福祉の連携や、多職種と協働できる社会福祉専門職のあり方について、具体的かつ実際に理解することができる。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	荻野 太司	3年	授業の最後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。	

学びの準備	ねらい ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題等について理解する。	メッセージ ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。
	到達目標 実習を通しての自らの成長と今後の学習課題を確認できる。 実習総括レポートの作成、報告ができる。 実習生同士でのディスカッションを重ね、ソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	ミニレポートを作成する
	2	実習成果の確認及び整理（グループ）①：「最も印象に残っている日誌の記録」について	ディスカッションを分析する
	3	実習成果の確認及び整理（グループ）②：「担当（陪席）した面接の記録」について	ディスカッションを分析する
	4	実習成果の確認及び整理（グループ）③：「個別支援計画（事例のまとめ）」について	ディスカッションを分析する
	5	実習成果の確認及び整理（個別）①：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	6	実習成果の確認及び整理（個別）②：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	7	実習成果の確認及び整理（個別）③：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	8	相談援助実習ゼミ報告会①：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	9	相談援助実習ゼミ報告会②：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	10	相談援助実習ゼミ報告会③：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	11	合同実習報告会：実習の評価全体総括	ディスカッションを分析する
	12	実習総括レポート（報告書）作成の意義と作成方法について	報告書を作成する
	13	報告書作成①	報告書を作成する
	14	報告書作成②	報告書を作成する
15	報告書作成③	報告書を作成する	
16	まとめ・実習指導者との交流会	今後の学習課題や進路を考える	
テキスト・参考文献・資料など テキスト：『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。			
学びの手立て 本科目は相談援助実習の事後学習として位置付けることができます。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができるよう、文献学習を行うとともに、学外での研修会や講演会にも積極的に参加しましょう。			
評価 実習報告内容① 25%、実習報告内容② 25%、レポート30%、ゼミへの主体的参加20%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助演習Ⅳ、その他関連科目の理解につなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

医療・保健・福祉の連携や、多職種と協働できる社会福祉専門職のあり方について、具体的かつ実際に理解することができる。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	3年	授業の最後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。	

学びの準備	ねらい ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題等について理解する。	メッセージ ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。
	到達目標 実習を通しての自らの成長と今後の学習課題を確認できる。 実習総括レポートの作成、報告ができる。 実習生同士でのディスカッションを重ね、ソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	ミニレポートを作成する
	2	実習成果の確認及び整理（グループ）①：「最も印象に残っている日誌の記録」について	ディスカッションを分析する
	3	実習成果の確認及び整理（グループ）②：「担当（陪席）した面接の記録」について	ディスカッションを分析する
	4	実習成果の確認及び整理（グループ）③：「個別支援計画（事例のまとめ）」について	ディスカッションを分析する
	5	実習成果の確認及び整理（個別）①：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	6	実習成果の確認及び整理（個別）②：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	7	実習成果の確認及び整理（個別）③：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	8	相談援助実習ゼミ報告会①：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	9	相談援助実習ゼミ報告会②：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	10	相談援助実習ゼミ報告会③：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	11	合同実習報告会：実習の評価全体総括	ディスカッションを分析する
	12	実習総括レポート（報告書）作成の意義と作成方法について	報告書を作成する
	13	報告書作成①	報告書を作成する
	14	報告書作成②	報告書を作成する
15	報告書作成③	報告書を作成する	
16	まとめ・実習指導者との交流会	今後の学習課題や進路を考える	
テキスト・参考文献・資料など テキスト：『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。			
学びの手立て 本科目は相談援助実習の事後学習として位置付けることができます。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができるよう、文献学習を行うとともに、学外での研修会や講演会にも積極的に参加しましょう。			
評価 実習報告内容① 25%、実習報告内容② 25%、レポート30%、ゼミへの主体的参加20%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助演習Ⅳ、その他関連科目の理解につなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	1年	授業終了後に教室で受け付けます。問い合わせは各教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。</p> <p>②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。</p> <p>③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本を学ぶ。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、実感を伴って理解するために、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。社会福祉士・精神保健福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていこう。</p>
到達目標	<p>①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解し、説明することができる。</p> <p>②特に自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解し、活用することができる。</p>	

学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ
学びの実践	1	オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～
	2	ソーシャルワークの目的と使命
	3	ソーシャルワークの価値規範と倫理
	4	自己覚知① 自己理解
	5	自己覚知② 他者理解
	6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術
	7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術
	8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用
	9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等
	10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング
	11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア
	12	ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理
	13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成
	14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程
	15	プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション
	16	まとめと振り返り
時間外学習の内容	<p>ソーシャルワークとは何か調べる</p> <p>目的と使命を調べる</p> <p>価値規範と倫理について調べる</p> <p>自己覚知について調べる</p> <p>課題に取り組む</p> <p>コミュニケーションについて調べる</p> <p>課題に取り組む</p> <p>面接技術について調べる</p> <p>課題に取り組む</p> <p>展開過程について調べる</p> <p>課題に取り組む</p> <p>記録について調べる</p> <p>グループダイナミクスを調べる</p> <p>課題に取り組む</p> <p>プレゼンテーションについて調べる</p> <p>各自の学びを評価し共有する</p>	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：特定の教科書はありません。随時資料を紹介します。</p>	
学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目である。自ら積極的に学ぶことを心がけよう。なお、本演習は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格関係科目である。他の受験資格関連科目と連動する内容であるため、教員の指導のもと関連科目を履修すること。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしよう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦める。</p>	
評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で学んだことを「ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」に活かしていくことを期待する。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	1年	授業終了後に教室で受け付けます。問い合わせは各教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。</p> <p>②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。</p> <p>③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本を学ぶ。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、実感を伴って理解するために、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。社会福祉士・精神保健福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていこう。</p>
到達目標	<p>①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解し、説明することができる。</p> <p>②特に自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解し、活用することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～	ソーシャルワークとは何か調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる
	3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる
	4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる
	5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む
	6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる
	7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む
8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる	
9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む	
10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる	
11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む	
12	ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理	記録について調べる	
13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる	
14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む	
15	プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキスト：特定の教科書はありません。随時資料を紹介します。	
学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目である。自ら積極的に学ぶことを心がけよう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目である。他の受験資格関連科目と連動する内容であるため、教員の指導のもと関連科目を履修すること。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしよう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦める。</p>		
評価	※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本演習で学んだことを「ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」に活かしていくことを期待する。

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名 ソーシャルワーク演習	期別 後期	曜日・時限 火5	単位 2
	担当者 知名 孝	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			授業終了後に教室で受け付けます。問い合わせは各教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい ①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。 ③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。	メッセージ 本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本を学ぶ。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、実感を伴って理解するために、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。社会福祉士・精神保健福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていこう。
	到達目標 ①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解し、説明することができる。 ②特に自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解し、活用することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～</td><td>ソーシャルワークとは何か調べる</td></tr> <tr><td>2</td><td>ソーシャルワークの目的と使命</td><td>目的と使命を調べる</td></tr> <tr><td>3</td><td>ソーシャルワークの価値規範と倫理</td><td>価値規範と倫理について調べる</td></tr> <tr><td>4</td><td>自己覚知① 自己理解</td><td>自己覚知について調べる</td></tr> <tr><td>5</td><td>自己覚知② 他者理解</td><td>課題に取り組む</td></tr> <tr><td>6</td><td>基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術</td><td>コミュニケーションについて調べる</td></tr> <tr><td>7</td><td>基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術</td><td>課題に取り組む</td></tr> <tr><td>8</td><td>基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用</td><td>面接技術について調べる</td></tr> <tr><td>9</td><td>基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等</td><td>課題に取り組む</td></tr> <tr><td>10</td><td>ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング</td><td>展開過程について調べる</td></tr> <tr><td>11</td><td>ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア</td><td>課題に取り組む</td></tr> <tr><td>12</td><td>ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理</td><td>記録について調べる</td></tr> <tr><td>13</td><td>グループダイナミクスの活用① グループワークの構成</td><td>グループダイナミクスを調べる</td></tr> <tr><td>14</td><td>グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程</td><td>課題に取り組む</td></tr> <tr><td>15</td><td>プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション</td><td>プレゼンテーションについて調べる</td></tr> <tr><td>16</td><td>まとめと振り返り</td><td>各自の学びを評価し共有する</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～	ソーシャルワークとは何か調べる	2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる	3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる	4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる	5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む	6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる	7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む	8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる	9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む	10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる	11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む	12	ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理	記録について調べる	13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる	14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む	15	プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる	16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する
回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～	ソーシャルワークとは何か調べる																																																		
2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる																																																		
3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる																																																		
4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる																																																		
5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む																																																		
6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる																																																		
7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む																																																		
8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる																																																		
9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む																																																		
10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる																																																		
11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む																																																		
12	ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理	記録について調べる																																																		
13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる																																																		
14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む																																																		
15	プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる																																																		
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する																																																		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：特定の教科書はありません。随時資料を紹介します。																																																			
	学びの手立て ①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目である。自ら積極的に学ぶことを心がけよう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目である。他の受験資格関連科目と連動する内容であるため、教員の指導のもと関連科目を履修すること。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしよう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦める。																																																			
	評価 ※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）																																																			

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを「ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」に活かしていくことを期待する。
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	1年	授業終了後に教室で受け付けます。問い合わせは各教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。</p> <p>②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。</p> <p>③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>本演習では、ソーシャルワーカーの基本を学びます。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、実感を伴って理解するために、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行います。社会福祉士・精神保健福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。</p>
到達目標	<p>①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解し、説明することができる。</p> <p>②特に自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解し、活用することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～	ソーシャルワークとは何か調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる
	3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる
	4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる
	5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む
	6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる
	7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む
8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる	
9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む	
10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる	
11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む	
12	ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理	記録について調べる	
13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる	
14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む	
15	プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキスト：特定の教科書はありません。随時資料を紹介します。	
学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目である。自ら積極的に学ぶことを心がけよう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目である。他の受験資格関連科目と連動する内容であるため、教員の指導のもと関連科目を履修すること。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしよう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦める。</p>		
評価	※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本演習で学んだことを「ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」に活かしていくことを期待する。

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 純子	2年	各教員にE-mailで連絡してください。 連絡先は授業初回で提示します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。</p> <p>②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。</p>	<p>ソーシャルワーク実習前の学習体験として、個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。</p>
到達目標	<p>具体的な事例等（集団に対する事例含む。）を活用し、支援をする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に理解し、習得します。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	利用者理解の方法について調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命、価値規範と倫理	利用者理解の方法について調べる
	3	社会福祉士の実践を理解する①虐待（児童）	実習機関・施設の動向を調べる
	4	社会福祉士の実践を理解する②虐待（障害者）	実習機関・施設の動向を調べる
	5	社会福祉士の実践を理解する③虐待（高齢者等）	利用者の動向や利用状況を調べる
	6	社会福祉士の実践を理解する④ひきこもり	利用者の動向や利用状況を調べる
	7	社会福祉士の実践を理解する⑤貧困	グループ発表の準備をする
	8	社会福祉士の実践を理解する⑥認知症	グループ発表の準備をする
	9	社会福祉士の実践を理解する⑦終末期ケア	ボランティア活動を行う
	10	社会福祉士の実践を理解する⑧災害時	ボランティア活動を行う
	11	社会福祉士の実践を理解する⑨その他の危機状態にある事例（権利擁護活動）	ボランティア活動の発表準備を行う
	12	社会福祉士の実践を理解する⑩更生保護	ボランティア活動の発表準備を行う
	13	社会福祉士の実践を理解する⑪多文化・国際社会福祉	レポート課題に取り組む
	14	社会福祉士の実践を理解する⑫地域福祉（社会福祉協議会）	レポート課題に取り組む
15	社会福祉士の実践を理解する⑬地域福祉（自治会・NPO法人）	個別面談の準備をする	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『最新・社会福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規</p> <p>『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規</p> <p>参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>
----	--

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	--

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p> <p>※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待します。</p> <p>（2）次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的に実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮良 あさの	2年	各教員にE-mailで連絡してください。 連絡先は授業初回で提示します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。</p> <p>②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。</p>	<p>ソーシャルワーク実習前の学習体験として、個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。</p>
到達目標	<p>具体的な事例等（集団に対する事例含む。）を活用し、支援をする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に理解し、習得します。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	利用者理解の方法について調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命、価値規範と倫理	利用者理解の方法について調べる
	3	社会福祉士の実践を理解する①虐待（児童）	実習機関・施設の動向を調べる
	4	社会福祉士の実践を理解する②虐待（障害者）	実習機関・施設の動向を調べる
	5	社会福祉士の実践を理解する③虐待（高齢者等）	利用者の動向や利用状況を調べる
	6	社会福祉士の実践を理解する④ひきこもり	利用者の動向や利用状況を調べる
	7	社会福祉士の実践を理解する⑤貧困	グループ発表の準備をする
	8	社会福祉士の実践を理解する⑥認知症	グループ発表の準備をする
	9	社会福祉士の実践を理解する⑦終末期ケア	ボランティア活動を行う
	10	社会福祉士の実践を理解する⑧災害時	ボランティア活動を行う
	11	社会福祉士の実践を理解する⑨その他の危機状態にある事例（権利擁護活動）	ボランティア活動の発表準備を行う
	12	社会福祉士の実践を理解する⑩更生保護	ボランティア活動の発表準備を行う
	13	社会福祉士の実践を理解する⑪多文化・国際社会福祉	レポート課題に取り組む
	14	社会福祉士の実践を理解する⑫地域福祉（社会福祉協議会）	レポート課題に取り組む
15	社会福祉士の実践を理解する⑬地域福祉（自治会・NPO法人）	個別面談の準備をする	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>
----	---

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	--

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p> <p>※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待します。</p> <p>（2）次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	2年	各教員にE-mailで連絡してください。 連絡先は授業初回で提示します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。</p> <p>②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。</p>	<p>ソーシャルワーク実習前の学習体験として、個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。</p>
到達目標	<p>具体的な事例等（集団に対する事例含む。）を活用し、支援をする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に理解し、習得します。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	利用者理解の方法について調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命、価値規範と倫理	利用者理解の方法について調べる
	3	社会福祉士の実践を理解する①虐待（児童）	実習機関・施設の動向を調べる
	4	社会福祉士の実践を理解する②虐待（障害者）	実習機関・施設の動向を調べる
	5	社会福祉士の実践を理解する③虐待（高齢者等）	利用者の動向や利用状況を調べる
	6	社会福祉士の実践を理解する④ひきこもり	利用者の動向や利用状況を調べる
	7	社会福祉士の実践を理解する⑤貧困	グループ発表の準備をする
	8	社会福祉士の実践を理解する⑥認知症	グループ発表の準備をする
	9	社会福祉士の実践を理解する⑦終末期ケア	ボランティア活動を行う
	10	社会福祉士の実践を理解する⑧災害時	ボランティア活動を行う
	11	社会福祉士の実践を理解する⑨その他の危機状態にある事例（権利擁護活動）	ボランティア活動の発表準備を行う
	12	社会福祉士の実践を理解する⑩更生保護	ボランティア活動の発表準備を行う
	13	社会福祉士の実践を理解する⑪多文化・国際社会福祉	レポート課題に取り組む
	14	社会福祉士の実践を理解する⑫地域福祉（社会福祉協議会）	レポート課題に取り組む
15	社会福祉士の実践を理解する⑬地域福祉（自治会・NPO法人）	個別面談の準備をする	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『最新・社会福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>
----	--

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	--

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p> <p>※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待します。</p> <p>（2）次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高江洲 あや子	2年	各教員にE-mailで連絡してください。 連絡先は授業初回で提示します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。</p> <p>②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。</p>	<p>ソーシャルワーク実習前の学習体験として、個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。</p>
到達目標	<p>具体的な事例等（集団に対する事例含む。）を活用し、支援をする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に理解し、習得します。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	利用者理解の方法について調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命、価値規範と倫理	利用者理解の方法について調べる
	3	社会福祉士の実践を理解する①虐待（児童）	実習機関・施設の動向を調べる
	4	社会福祉士の実践を理解する②虐待（障害者）	実習機関・施設の動向を調べる
	5	社会福祉士の実践を理解する③虐待（高齢者等）	利用者の動向や利用状況を調べる
	6	社会福祉士の実践を理解する④ひきこもり	利用者の動向や利用状況を調べる
	7	社会福祉士の実践を理解する⑤貧困	グループ発表の準備をする
	8	社会福祉士の実践を理解する⑥認知症	グループ発表の準備をする
	9	社会福祉士の実践を理解する⑦終末期ケア	ボランティア活動を行う
	10	社会福祉士の実践を理解する⑧災害時	ボランティア活動を行う
	11	社会福祉士の実践を理解する⑨その他の危機状態にある事例（権利擁護活動）	ボランティア活動の発表準備を行う
	12	社会福祉士の実践を理解する⑩更生保護	ボランティア活動の発表準備を行う
	13	社会福祉士の実践を理解する⑪多文化・国際社会福祉	レポート課題に取り組む
	14	社会福祉士の実践を理解する⑫地域福祉（社会福祉協議会）	レポート課題に取り組む
15	社会福祉士の実践を理解する⑬地域福祉（自治会・NPO法人）	個別面談の準備をする	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>
----	---

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	--

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p> <p>※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待します。</p> <p>（2）次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮良 あさの	2年	各教員にE-mailで連絡すること。 連絡先は授業初回で提示する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。	個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。※福祉実践現場のソーシャルワーカーからも学びますので、積極的な参加が求められます。
到達目標	①事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技を習得する。 ②利用者、グループ、地域住民等へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解し、説明できる。 ③個別支援計画等、様々な計画の策定方法（プランニングまで）を理解し、説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	SWのグローバル定義を復習する
	2	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について①3つのモデル	実践モデルとアプローチを復習する
	3	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について②ミクロ・メゾ・マクロレベル	SWの対象と展開過程を復習する
	4	ケースの発見	ケアマネジメントについて調べる
	5	エンゲージメント(インテーク)	ケアマネジメント(障害者)
	6	アセスメント①アセスメント・ツールの枠組み、使用方法	ケアマネジメント(高齢者)
	7	アセスメント②アセスメントのポイント、ニーズの把握	グループ課題の準備をする
	8	プランニング①プランニングの様式、ポイント、手順	グループ課題の準備をする
	9	プランニング②支援目標・支援計画	グループ発表の準備をする
	10	支援の実施①利用者やその関係者との援助関係の形成	グループ発表の準備をする
	11	支援の実施②利用者やその関係者への権利擁護及び支援	実践事例について調べる
	12	モニタリング	実践事例について調べる
	13	支援の終結と事後評価①支援内容や計画を評価する目的や方法	個別課題に取り組む
	14	支援の終結と事後評価②利用者への支援やサービスの評価	個別課題に取り組む
15	アフターケア	個別課題に取り組む	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト： 『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	---

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%） ※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待します。 (2) 次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的に実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	2年	各教員にE-mailで連絡すること。 連絡先は授業初回で提示する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。	個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。※福祉実践現場のソーシャルワーカーからも学びますので、積極的な参加が求められます。
到達目標	①事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技を習得する。 ②利用者、グループ、地域住民等へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解し、説明できる。 ③個別支援計画等、様々な計画の策定方法（プランニングまで）を理解し、説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	SWのグローバル定義を復習する
	2	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について①3つのモデル	実践モデルとアプローチを復習する
	3	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について②ミクロ・メゾ・マクロレベル	SWの対象と展開過程を復習する
	4	ケースの発見	ケアマネジメントについて調べる
	5	エンゲージメント(インテーク)	ケアマネジメント(障害者)
	6	アセスメント①アセスメント・ツールの枠組み、使用方法	ケアマネジメント(高齢者)
	7	アセスメント②アセスメントのポイント、ニーズの把握	グループ課題の準備をする
	8	プランニング①プランニングの様式、ポイント、手順	グループ課題の準備をする
	9	プランニング②支援目標・支援計画	グループ発表の準備をする
	10	支援の実施①利用者やその関係者との援助関係の形成	グループ発表の準備をする
	11	支援の実施②利用者やその関係者への権利擁護及び支援	実践事例について調べる
	12	モニタリング	実践事例について調べる
	13	支援の終結と事後評価①支援内容や計画を評価する目的や方法	個別課題に取り組む
	14	支援の終結と事後評価②利用者への支援やサービスの評価	個別課題に取り組む
15	アフターケア	個別課題に取り組む	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト： 『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	--

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%） ※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待します。 (2) 次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大久保 礼子	2年	各教員にE-mailで連絡すること。 連絡先は授業初回で提示する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。	個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。※福祉実践現場のソーシャルワーカーからも学びますので、積極的な参加が求められます。
到達目標	①事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技を習得する。 ②利用者、グループ、地域住民等へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解し、説明できる。 ③個別支援計画等、様々な計画の策定方法（プランニングまで）を理解し、説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	SWのグローバル定義を復習する
	2	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について①3つのモデル	実践モデルとアプローチを復習する
	3	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について②ミクロ・メゾ・マクロレベル	SWの対象と展開過程を復習する
	4	ケースの発見	ケアマネジメントについて調べる
	5	エンゲージメント(インテーク)	ケアマネジメント(障害者)
	6	アセスメント①アセスメント・ツールの枠組み、使用方法	ケアマネジメント(高齢者)
	7	アセスメント②アセスメントのポイント、ニーズの把握	グループ課題の準備をする
	8	プランニング①プランニングの様式、ポイント、手順	グループ課題の準備をする
	9	プランニング②支援目標・支援計画	グループ発表の準備をする
	10	支援の実施①利用者やその関係者との援助関係の形成	グループ発表の準備をする
	11	支援の実施②利用者やその関係者への権利擁護及び支援	実践事例について調べる
	12	モニタリング	実践事例について調べる
	13	支援の終結と事後評価①支援内容や計画を評価する目的や方法	個別課題に取り組む
	14	支援の終結と事後評価②利用者への支援やサービスの評価	個別課題に取り組む
15	アフターケア	個別課題に取り組む	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト： 『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	---

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%） ※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待します。 (2) 次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 純子	2年	各教員にE-mailで連絡すること。 連絡先は授業初回で提示する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。	個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。※福祉実践現場のソーシャルワーカーからも学びますので、積極的な参加が求められます。
到達目標	①事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技を習得する。 ②利用者、グループ、地域住民等へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解し、説明できる。 ③個別支援計画等、様々な計画の策定方法（プランニングまで）を理解し、説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	SWのグローバル定義を復習する
	2	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について①3つのモデル	実践モデルとアプローチを復習する
	3	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について②ミクロ・メゾ・マクロレベル	SWの対象と展開過程を復習する
	4	ケースの発見	ケアマネジメントについて調べる
	5	エンゲージメント(インテーク)	ケアマネジメント(障害者)
	6	アセスメント①アセスメント・ツールの枠組み、使用方法	ケアマネジメント(高齢者)
	7	アセスメント②アセスメントのポイント、ニーズの把握	グループ課題の準備をする
	8	プランニング①プランニングの様式、ポイント、手順	グループ課題の準備をする
	9	プランニング②支援目標・支援計画	グループ発表の準備をする
	10	支援の実施①利用者やその関係者との援助関係の形成	グループ発表の準備をする
	11	支援の実施②利用者やその関係者への権利擁護及び支援	実践事例について調べる
	12	モニタリング	実践事例について調べる
	13	支援の終結と事後評価①支援内容や計画を評価する目的や方法	個別課題に取り組む
14	支援の終結と事後評価②利用者への支援やサービスの評価	個別課題に取り組む	
15	アフターケア	個別課題に取り組む	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト： 『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>	
学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>		
評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%） ※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>(1) 関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待します。 (2) 次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。</p>

※ポリシーとの関連性 現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	期別 後期	曜日・時限 金 2	単位 2
	担当者 荻野 太司	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			授業終了後に教室で受け付けます。 各教員にE-mailで連絡すること。	

学びの準備	ねらい ①ソーシャルワーク実習Ⅰの意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。	メッセージ 実際に実習を行う分野やその利用者を理解するため、また多様な施設や事業所の基本的な理解を深めるために、授業関連だけではなく、各分野（障害・児童・地域・医療等）でのボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。
	到達目標 ①ソーシャルワーク実習Ⅰ及び実習指導の意義を理解することができる。 ②実習分野、利用者（高齢者・障がい者・児童）の理解が深まる。 ③地域社会における施設・機関の社会的役割等が理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	グローバル定義について調べる
	2	社会福祉士の価値と倫理：ソーシャルワークのグローバル定義	倫理綱領について調べる
	3	社会福祉士の価値と倫理：ソーシャルワークの価値規範・倫理綱領	守秘義務について調べる
	4	社会福祉士の価値と倫理：個人のプライバシーの保護と守秘義務等	スーパービジョンについて調べる
	5	ソーシャルワーク実習Ⅰ及び実習指導の意義：スーパービジョンについて	グループで施設理解に向け準備する
	6	多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習の主旨について	グループで施設理解に向け準備する
	7	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解①高齢者施設	施設の法的根拠について調べる
	8	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解②障害児者施設（児童）	施設の法的根拠について調べる
	9	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解③障害児者施設（就労・地域生活支援）	施設の法的根拠について調べる
	10	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解④児童福祉施設	コミュニケーション技法を調べる
	11	利用者の理解：ソーシャルワークの知識・技術	コミュニケーション技法を調べる
	12	利用者の理解：基本的なコミュニケーション技術	コミュニケーション技法を調べる
	13	利用者の理解：基本的な面接技術	ボランティア体験をまとめる
	14	記録の重要性と書き方①：実習記録への記録内容	ボランティア体験をまとめる
	15	記録の重要性と書き方②：実習記録への記録方法	総括レポートをまとめる
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

テキスト・参考文献・資料など
『最新・社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規
参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。

学びの手立て
①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。課題にはしっかり取り組み、提出期限を守ってください。
②本科目は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関係科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。
③社会福祉士基礎科目については、科目間の関連性を意識して受講してください。特に並行して受講する「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ」等は重要です。

評価
※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）
※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク実習指導の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。

学びの継続
次のステージ・関連科目
・本科目の発展的科目は「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」です。科目間の関連性を意識し受講し、「ソーシャルワーク実習」がスムーズに展開できるように学びましょう。
・現場での実習を通して、＜福祉・医療・保健・教育の各分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼

※ポリシーとの関連性 現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	期別 後期	曜日・時限 金 2	単位 2
	担当者 比嘉 昌哉	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			授業終了後に教室で受け付けます。 各教員にE-mailで連絡すること。	

学びの準備	ねらい ①ソーシャルワーク実習Ⅰの意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。	メッセージ 実際に実習を行う分野やその利用者を理解するため、また多様な施設や事業所の基本的な理解を深めるために、授業関連だけではなく、各分野（障害・児童・地域・医療等）でのボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。
	到達目標 ①ソーシャルワーク実習Ⅰ及び実習指導の意義を理解することができる。 ②実習分野、利用者（高齢者・障がい者・児童など）の理解が深まる。 ③地域社会における施設・機関の社会的役割等が理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	授業の目的を確認する
	2	実習及び実習指導の意義と目的	実習の意義と目的について調べる
	3	「SW実習Ⅰ」に向けてのオリエンテーションⅠ（主旨説明等）	オリ資料の事前に確認する
	4	情報収集の方法	実際に情報収集を行う
	5	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解①社会福祉協議会	施設の法的根拠等について調べる
	6	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解②病院・居宅介護支援事業所	施設の法的根拠等について調べる
	7	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解③障害福祉サービス事業所	施設の法的根拠等について調べる
	8	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解④放課後等デイサービス事業	施設の法的根拠等について調べる
	9	社会福祉士の価値と倫理：SWの倫理綱領、個人のプライバシーの保護と守秘義務等	倫理綱領等について調べる
	10	「SW実習Ⅰ」に向けてのオリエンテーションⅡ（直前指導等）	オリ資料の事前に確認する
	11	実習プログラム(3段階)の理解	実習プログラム(3段階)を調べる
	12	実習目標及び実習計画書の作成	実際に実習目標等を立てる
	13	利用者の理解：基本的なコミュニケーション技術、基本的な面接技術	コミュニケーション技術を調べる
	14	記録の重要性と書き方：実習記録の内容と方法	記録について調べる
	15	実習中起こり得る問題	実習目標等をまとめる
16	まとめと振り返り	実習目標等をまとめる	

テキスト・参考文献・資料など
参考図書：『最新・社会福祉士養成講座8 ソーシャルワークの実習指導 ソーシャルワーク実習[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規。
その他の参考文献・資料等は授業時に随時紹介します。

学びの手立て
①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。課題にはしっかり取り組み、提出期限を守ってください。
②本科目は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関係科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。
③社会福祉士基礎科目については、科目間の関連性を意識して受講してください。特に並行して受講する「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ」等は重要です。

評価
※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、授業への主体的参加（30%）、受講態度（10%）
※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク実習指導の目的・内容・方法を理解し、グループ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。

学びの継続
次のステージ・関連科目
・本科目の発展的科目は「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」です。科目間の関連性を意識し受講し、「ソーシャルワーク実習」がスムーズに展開できるように学びましょう。
・現場での実習を通して、＜福祉・医療・保健・教育の各分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材＞になることを目標に掲げて学びを深めることを期待します。

※ポリシーとの関連性 現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名 ソーシャルワーク実習指導 I	期別 後期	曜日・時限 金 2	単位 2
	担当者 岩田 直子	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			授業終了後に教室で受け付けます。 各教員にE-mailで連絡すること。	

学びの準備	ねらい ①ソーシャルワーク実習 I の意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。	メッセージ 実際に実習を行う分野やその利用者を理解するため、また多様な施設や事業所の基本的な理解を深めるために、授業関連だけではなく、各分野（障害・児童・地域・医療等）でのボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。
	到達目標 ①ソーシャルワーク実習 I 及び実習指導の意義を理解することができる。 ②実習分野、利用者（高齢者・障がい者・児童）の理解が深まる。 ③地域社会における施設・機関の社会的役割等が理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	グローバル定義について調べる
	2	社会福祉士の価値と倫理：ソーシャルワークのグローバル定義	倫理綱領について調べる
	3	社会福祉士の価値と倫理：ソーシャルワークの価値規範・倫理綱領	守秘義務について調べる
	4	社会福祉士の価値と倫理：個人のプライバシーの保護と守秘義務等	スーパービジョンについて調べる
	5	ソーシャルワーク実習 I 及び実習指導の意義：スーパービジョンについて	グループで施設理解に向け準備する
	6	多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習の主旨について	グループで施設理解に向け準備する
	7	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解①高齢者施設	施設の法的根拠について調べる
	8	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解②障害児者施設（児童）	施設の法的根拠について調べる
	9	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解③障害児者施設（就労・地域生活支援）	施設の法的根拠について調べる
	10	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解④児童福祉施設	コミュニケーション技法を調べる
	11	利用者の理解：ソーシャルワークの知識・技術	コミュニケーション技法を調べる
	12	利用者の理解：基本的なコミュニケーション技術	コミュニケーション技法を調べる
	13	利用者の理解：基本的な面接技術	ボランティア体験をまとめる
	14	記録の重要性と書き方①：実習記録への記録内容	ボランティア体験をまとめる
	15	記録の重要性と書き方②：実習記録への記録方法	総括レポートをまとめる
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	テキスト・参考文献・資料など 『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座 1 1 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。
----	---

学びの手立て	①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。課題にはしっかり取り組み、提出期限を守ってください。 ②本科目は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関係科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ③社会福祉士基礎科目については、科目間の関連性を意識して受講してください。特に並行して受講する「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ」等は重要です。
--------	--

評価	※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%） ※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク実習指導の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・本科目の発展的科目は「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」です。科目間の関連性を意識し受講し、「ソーシャルワーク実習」がスムーズに展開できるように学びましょう。 ・現場での実習を通して、＜福祉・医療・保健・教育の各分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼
-------	--

※ポリシーとの関連性 現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	期別 後期	曜日・時限 金 2	単位 2
	担当者 樋口 美智子	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			授業終了後に教室で受け付けます。 各教員にE-mailで連絡すること。	

学びの準備	ねらい ①ソーシャルワーク実習Ⅰの意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。	メッセージ 実際に実習を行う分野やその利用者を理解するため、また多様な施設や事業所の基本的な理解を深めるために、授業関連だけではなく、各分野（障害・児童・地域・医療等）でのボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。
	到達目標 ①ソーシャルワーク実習Ⅰ及び実習指導の意義を理解することができる。 ②実習分野、利用者（高齢者・障がい者・児童）の理解が深まる。 ③地域社会における施設・機関の社会的役割等が理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	グローバル定義について調べる
	2	社会福祉士の価値と倫理：ソーシャルワークのグローバル定義	倫理綱領について調べる
	3	社会福祉士の価値と倫理：ソーシャルワークの価値規範・倫理綱領	守秘義務について調べる
	4	社会福祉士の価値と倫理：個人のプライバシーの保護と守秘義務等	スーパービジョンについて調べる
	5	ソーシャルワーク実習Ⅰ及び実習指導の意義：スーパービジョンについて	グループで施設理解に向け準備する
	6	多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習の主旨について	グループで施設理解に向け準備する
	7	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解①高齢者施設	施設の法的根拠について調べる
	8	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解②障害児者施設（児童）	施設の法的根拠について調べる
	9	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解③障害児者施設（就労・地域生活支援）	施設の法的根拠について調べる
	10	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解④児童福祉施設	コミュニケーション技法を調べる
	11	利用者の理解：ソーシャルワークの知識・技術	コミュニケーション技法を調べる
	12	利用者の理解：基本的なコミュニケーション技術	コミュニケーション技法を調べる
	13	利用者の理解：基本的な面接技術	ボランティア体験をまとめる
	14	記録の重要性と書き方①：実習記録への記録内容	ボランティア体験をまとめる
	15	記録の重要性と書き方②：実習記録への記録方法	総括レポートをまとめる
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	テキスト・参考文献・資料など 『最新・社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。
----	---

学びの手立て	①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。課題にはしっかり取り組み、提出期限を守ってください。 ②本科目は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関係科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ③社会福祉士基礎科目については、科目間の関連性を意識して受講してください。特に並行して受講する「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ」等は重要です。
--------	--

評価	※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%） ※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク実習指導の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・本科目の発展的科目は「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」です。科目間の関連性を意識し受講し、「ソーシャルワーク実習」がスムーズに展開できるように学びましょう。 ・現場での実習を通して、＜福祉・医療・保健・教育の各分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼
-------	--